

(様式4)

令和8年3月16日

富山県教育委員会教育長 殿

富山県立富山西高等学校

校長 永原 美智代

令和7年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

## 令和7年度 学校総合評価

### 6 今年度の重点目標に対する総合評価

本校は、本年度の学校経営計画に基づき、授業改善、学校生活の充実、進路支援、特別活動の活性化、PTA・広報体制の強化という5つの重点項目について計画的に取り組み、多方面で成果を上げた。授業改善では、9月を「互見授業月間」とし、教員同士が授業を公開し学び合う機会を拡大するとともに、ICT活用研修を充実させた。その結果、互見授業参観率は73%、ICTを活用した授業の実施率は76%となり、授業改善の文化が着実に根付いた。学校生活の面では、SNSトラブル防止指導や生活改善週間により、ネットリスクへの理解は100%に達するなど一定の成果が見られた。しかし、「夜11時までの就寝」など生活習慣の改善は目標に届かず、引き続き働きかけが必要であるとともに、実際の生徒の生活を考えた上で目標の変更も検討すべきである。ただ生活リズムの確立は学習意欲にも関わるため、次年度は段階的な目標設定と学年・生徒指導・進路の連携強化が求められる。進路支援では、計画的なキャリアガイダンスや個別指導の充実により、1・2年生の進路意識は大きく高まり、3年生の進路満足度も高い水準を示した。図書館行事である新聞活用講座や読書教養講座も、生徒が社会課題を知り自己の考えを深める機会となり、進路形成に寄与した。特別活動では、年間8回のリーダー研修を通して自主性を育成し、各行事での生徒の主体的な姿が増えた。ボランティア活動も広がりつつあるが、参加率向上には動機づけや活動情報の可視化など、工夫を重ねる必要がある。PTA・広報活動では、年間15回の会合を通して役員間の連携が深まり、学校行事や活動の発信は35回にのぼり、保護者や地域への情報提供が大幅に向上した。今後は、PTAの次世代への引継ぎや広報の戦略的運用が課題となる。これらの成果を踏まえ、次年度は生活習慣改善、主体的学びの促進、地域連携の強化、広報体制の継続的向上を図りながら、学校全体で教育活動の質をさらに高めていくことが重要である。

### 7 次年度へ向けての課題と方策

本年度の取組により、授業改善や進路支援、広報体制の強化など多くの分野で成果が見られた一方、生活習慣の改善やボランティア参加率の向上、一部活動の質的深化など、継続して取り組むべき課題も明らかとなった。次年度は、互見授業やICT活用の実践をさらに発展させ、双方向性と主体性を育む授業の定着を図る。また、生活習慣に関する目標を実態に即して再設定し、学習指導や進路指導と連携した支援体制を整備する。特別活動では、外部講師の活用や情報掲示を充実させ、生徒が主体的に活動へ参加できる環境を強化する。PTA活動については、今年度の成果を継承しつつ次世代役員への円滑な引き継ぎを図り、広報のさらなる充実によって地域と協働した学校づくりを推進する。さらに、教職員に対しては、実践共有や研修機会の確保を通し、学校全体の教育力向上へつなげていく。

## 5 今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 1 -	
重点項目	授業力の向上
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様な生徒に即応し、学習意欲を向上させるために、互見授業を通して、他の先生の授業の工夫を知る。また、自らの授業の指導内容や方法を工夫する。</li> <li>ICT 機器を活用した授業展開を工夫し、発展させる。</li> <li>特にタブレットを用いた授業展開について、研究する。</li> </ul>
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習に対して意欲的に活動できない生徒が見受けられる一方、上級学校への進学に向けて、積極的に課題に取り組む生徒もいる。</li> <li>各教室にプロジェクターが設置され、それらを活用した授業も数多く実施されるようになった。昨年度、ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合が 60%を超える程度であったが、更なる活用を促していきたい。</li> </ul>
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業参観を実施した教員の割合 60%以上</li> <li>ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合 70%以上</li> </ul>
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の教員の授業を参観しやすくするため、互見授業月間を設定する。</li> <li>全教員が教科の枠を取り払い、互見授業に意欲的に取り組み、学習教材の精選や指導方法の工夫に努める。また、授業後の感想を簡潔に伝えられるようにする。</li> <li>ICT 活用研修会を数多く実施し、生徒が興味・関心を引くような質の高い授業を展開できるように努める。また、ICT 機器を活用した授業展開例などを教員間で共有し、今後の授業への活用の参考になるようにする。</li> </ul>
達 成 度	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業参観を実施した教員の割合 73%</li> <li>ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合 76%</li> </ul>
具体的な 取組状況	<p>昨年度は、年間に3回、10日程度ずつ互見授業週間を設けていたが、先生方が授業を見学する計画を立てやすくするため、今年度は9月を互見授業月間とすることとした。また、教務部が各先生からアンケートをとり、「公開する授業一覧」を作成し、授業見学者が興味をもった授業を見学出来るようにした。印象深い授業として、「英語の電子書籍を読み、英語のおすすめ本の POP 作成」、「本、web、県立図書館の複数の信頼性の高い情報源を使用しての調べ学習」、「生徒に発表させるときの興味関心を高める工夫」、「生徒が調べ学習を行い、発表する授業」、「現物を見せて興味をもたせる授業」、「ペアワークの効果的な活用」、「タブレットの活用」、「同じ単元の授業での進め方の違い」、「実験を含めた授業の進め方」などがあがっていた。</p>
評 価	<ul style="list-style-type: none"> <li>互見授業参観を実施した教員の割合 A</li> <li>ICT 機器を使った授業を実施した教員の割合 A</li> </ul>
学校評議員 の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT を使用した授業は一般的なものになっている。そのため、グループフォームなどを使用して双方向の授業などに取り組めば、面白いのではないかと考える。</li> <li>授業の進め方など教員間で共有できる仕組みがあれば良いのではないかと考える。一般企業でも動画を利用して学習している。</li> </ul>
次年度に向 けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT 機器を利用した、双方向の授業などを教員間で学習する。</li> <li>今年度から互見授業月間とし、見学したい授業を先生方にあげてもらった。来年度も継続して行きたい。また、授業を見学して印象的だったところや興味深い授業の進め方を教員間で共有できるようにしたい。</li> </ul>

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	学校生活	
重点課題	規則正しい生活習慣を確立し、社会性を身につけさせる	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の使用に関連したネットトラブルの発生が危惧される。</li> <li>・登校しても脳が活性化されておらず、授業に集中できない生徒がいる。</li> </ul>	
達成目標	SNS 利用について理解を深めた生徒の割合	「夜 11 時までに就寝」の生徒の割合 「毎朝、朝食を摂って登校」の生徒の割合
	60%以上	「夜 11 時までに就寝」60%以上 「毎朝、朝食を摂って登校」80%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活実態調査を実施し、ネットトラブルについての状況を確認・把握するとともに、該当生徒については個別に注意喚起を行い、未然防止に努める。</li> <li>・本校の実態に即した内容で外部講師による講演会等を開催するとともに、全校（学年）集会時の呼びかけを強化し、SNS 等の正しい使用について理解を深めさせる。</li> <li>・「取り組み週間」を設定して、普段の生活を見直すよう働きかける。</li> <li>・保健委員会と協力して、楽しい雰囲気で行うように工夫する。</li> <li>・保健だより等を通して、生活改善の必要性を説く。</li> </ul>	
達 成 度	2 学期の講座終了後アンケートより ○ネットの危険性について（参考） <ul style="list-style-type: none"> <li>・とても理解できたと回答した生徒（248/323 名 77%）</li> <li>・ある程度理解できたと回答した生徒（75/323 名 23%）</li> </ul>	2 学期「夜 11 時までに就寝しよう、朝食を食べて登校しよう」の取り組み(10/20～/26)後のアンケートより <ul style="list-style-type: none"> <li>・「夜 11 時までに就寝」49.4%</li> <li>・「毎朝、朝食を摂って登校」85.9%</li> </ul>
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1 学期初旬に 1 学年に対してネットトラブル防止講習会を開いた。また 2 学期には全学年に対して動画を利用しネットトラブルについて考える機会を設けた。ネットトラブルに対する注意喚起ができたものと考えられる。</li> <li>・全校集会や学年集会で生徒指導部から SNS の正しい利用について呼びかけた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの期間、啓蒙ポスターの掲示や保健委員からクラスに呼びかけを実施した。「夜 11 時までに就寝」は 49.4%と昨年度と同様の数字であり、このグループは翌日の調子も良いと回答した。「毎朝、朝食を摂って登校」は 85.9%と例年より高く、翌日の体調・授業集中度も良好と回答している。</li> <li>・取り組み後の感想は、概ね肯定的であった。</li> </ul>
評 価	A	B
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SNS 利用に関する危険性やトラブルについての情報提供を引き続きおこなう必要がある。</li> <li>・達成目標「11 時までに就寝」について、何時に寝るという目標よりも、睡眠時間を設定する方がよいのではないか。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も引き続き、SNS 利用時の危険性に関する情報提供と、生徒がトラブルに巻き込まれていないかの状況の把握を進めていきたい。</li> <li>・次年度には、達成目標「11 時までに就寝」について目標の見直しを検討すべきである。</li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 3 -

重点項目	進路支援	
重点課題	① 3年間を見通したキャリア教育の推進を図る。 ② 進路実現に向けた支援の拡充を図る。 ③ 図書館行事によりさまざまな生き方や考え方に触れさせることで、キャリア教育等の推進につなげる。	
現 状	自らの進路についての意識が希薄で、学年が進んでも明確な目標を見つけることができない生徒がいる。そのため、進路実現に向けた具体的な方策を各自で計画し、実施することが難しく、面接や小論文など学科以外の指導に多くの時間が費やされる。	
達成目標	① 1・2年生：キャリアガイダンスによって、自らの進路選択や進路目標が明確になった生徒の割合 1年生 60% 2年生 75% ② 3年生：進路支援に満足した生徒の割合 3年生 75%	③ 「新聞活用講座」によって、現代の課題を知り自分の考えをもつことができたと答えた生徒の割合 80% ・「新聞活用講座」や「読書教養講座」などの図書館行事が、進路意識や社会意識を高めるのに有意義であったと答えた生徒の割合 70%
方 策	① 進路講演会や進路ガイダンスなどを1・2年生で計画的に実施し、進路意識の向上を図り、早期に進路目標を明確にさせる。また、進路目標の実現には、積極的に学習に取り組むことが大切であることを、多様な活動を通して伝えていく。 ② 進路選択が多様であり、生徒一人ひとりに合った進路支援を計画的に行う。特に、3年生については、学年担当者を中心に、学校全体で生徒の進路を支援する体制を構築する。 ③ ・今年度も、生徒の自主参加による「新聞活用講座」を実施する。月1回のペースで放課後に実施する。生徒が新聞を活用し、看護・福祉の現場や現代社会が抱える課題等について知り、将来の自分の進路に活かすことを目標とする。また、参加生徒の社会意識を高めると同時に、面接や小論文に活かせるよう、まとめる力や発表する力の育成も図る。 ・1週間の朝読書を1・2学期に1回実施し、どの学年の生徒も本の良さを知り、自分の人生や生活に活かすことを目標とする。 ・読書教養講座は、いろいろな人の考え方にふれて自分の知識や想いを広げることを目標とする。	
達 成 度	① 1年生 96.6 % 2年生 87.7 % ② 3年生 実現サポート 87.8 % 面談・個別指導 95.3 % 情報提供 94.3 %	③ 「新聞活用講座」によって、現代の課題を知り自分の考えをもつことができたと答えた生徒の割合 100% ・「朝読書」が社会意識を高めたり、人生や生活に役立てたりすることができたと答えた生徒の割合 83% ・「読書教養講座」を通して、自分の知識や想いを広げることができたと答えた生徒の割合 97%
具体的な取組状況	①進路ガイダンスについて、1年生は1回（7月）、2年生は7月に進路探訪（企業・大学見学）を実施した。両学年とも3月にもう1回実施した。 アンケートの結果、全学年とも達成目標を上回った。 「個性・適性を踏まえた指導が行われている」と回答した生徒の割合が、1年：95.9%、2年：80.3%、3年：87.8%であった。 自由回答では非常に多くの感謝の記載があった。 ②3年生では「先生方は、生徒の進路実現に向けて面談や個別指導を行っている」と考えている生徒の割合が95.3%であった。 他の質問についても高い評価を得ている。	・「新聞活用講座」の各回の参加人数は、看護・福祉が7名、14名、8名であり、現代社会が13名、11名であった。（アンケートの回答者は18名） ・「朝読書」は全校一斉に7月と10月に行った。 1・2年生は、7月は読書感想文のための本を、10月は好きな本を読み、3年生は2回とも進路や人生に関する本を読んだ。 （アンケートは全校生徒が回答） ・「読書教養講座」では、生徒34名が参加し『ふるさと文学』を通して富山ゆかりの作家や作品に触れるとともに、短歌制作も行った。友達と意見交換をしながら楽しく表現力を磨いた。（アンケートの回答は34名）
評 価	A	
学校評議員の意見	・アンケート回答に、先生方に向けた多くの感謝の言葉があったということを知り、本当に温かい学校であると感じた。普段から、生徒・教員間の関係が良好で、見ていて安心できる。 ・読書感想文コンクールなどで文章を書くことは難しいが、図書部の様々な取り組みによって成果を上げていると感じた。	
次年度に向けての課題	・アンケート結果が非常に高い満足度を示していることを、外部にも発信できないか。中学3年生に本校の魅力アピールできたらよい。 ・学校全体で生徒の進路実現を支援する現在の体制は継続する。 ・新聞活用講座と朝読書を通して進路支援をする体制を整える。	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

令和7年度 富山西高校アクションプラン - 4 -

重点項目	特別活動	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や部活動の生徒を対象にリーダー研修会を実施し、集団の中でのリーダーとしての意識や能力を身につけさせる。</li> <li>・ボランティア活動を通じて自主的、自律的な態度を育てる。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動や各部活動において、教員の支援が必要な状態が散見される。</li> <li>・各学校行事やボランティア活動に主体的に参加する生徒が多くいるが、主体的な活動に消極的な生徒も見受けられる。</li> </ul>	
達成目標	リーダー研修等を行う回数	ボランティア活動に参加した生徒
	年間6回以上	30%以上
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修会を行うことで生徒が自主的に活動や企画を考え、実行する力を身につけさせる。</li> <li>・ボランティア活動に関わる情報やボランティアの理念を生徒に丁寧な説明を通して、主体的に参加できるように生徒へ働きかける。</li> </ul>	
達 成 度	リーダー研修会等を行った回数	ボランティア活動に参加した生徒
	8回	75名（約22%）
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修について <ul style="list-style-type: none"> <li>体育大会に向けての研修（応援リーダー1回、会計責任者1回）</li> <li>三柏展に向けての研修（計画責任者1回、会計責任者1回）</li> <li>生徒会誌作成に向けての研修（各クラス文化委員3回）</li> <li>部活動関係（各部代表者1回）</li> </ul> </li> <li>*多くの生徒に対して研修を実施したことで、自主的に行動する生徒が増加したように感じた。</li> <li>・ボランティア活動に参加した生徒 <ul style="list-style-type: none"> <li>速星駅周辺美化活動（42名） 速星駅への座布団の寄贈（4名）</li> <li>保育施設訪問（4名） 薬物乱用防止キャンペーン活動（5名）</li> <li>あつつあつ鍋祭り（16名） 茶道部ボランティア（4名）</li> </ul> </li> <li>*今年度ボランティア活動に参加した生徒はのべ75名であった。</li> </ul>	
評 価	A	C
学校評議員の意見	ボランティア活動は地域貢献のためにも、必要とされている。何らかの動機付けをして、参加者を増やすことが望ましい。	
次年度に向けての課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修について <ul style="list-style-type: none"> <li>校内の教員による研修に限らず、外部講師を招き、生徒が新たな知識や、広い視野の習得ができる環境づくりをする。</li> </ul> </li> <li>・ボランティア活動について <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒玄関前にボランティアに関する掲示板を設置することで、生徒がボランティア募集情報を自ら収集し、ボランティア活動に参加しやすい状況を作る。</li> </ul> </li> </ul>	

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

重点項目	その他	
重点課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創立 100 周年を終え、活気のある本校 P T A 活動を維持させ、P T A 役員相互の連携を密にしながら本校独自の取り組み方を工夫する。</li> <li>・生徒の活動や本校の活動をより多くの保護者や中学生等に知ってもらえるようホームページや SNS 等の一層の充実を図る。</li> </ul>	
現 状	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会を十分配慮しながら P T A 活動を計画しなければならない。また P T A 役員となっても会合に一度も出席できない保護者も若干いる。</li> <li>・教育・安全情報サービスで、様々な情報は流すものの、行事の内容を詳細に伝えることやビジュアル的に訴えることはできない。</li> </ul>	
達成目標	P T A に関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	12 回以上	30 回以上 (月平均 3 回)
方 策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ P T A 総会や保護者会等を通して、P T A への理解を深めてもらい、P T A 役員会や各行事への参加を働きかける。</li> <li>・学校行事や P T A の活躍の記事などを、機会を捉えてホームページや SNS 等に掲載する。</li> </ul>	
達 成 度	P T A に関わる会合の実施回数	ホームページの記事等のアップ回数
	125% (15 回) 予定の会議に加え各委員会も行われた。	117% (35 回) 行事情報や活動成果等、好機にわかりやすく発信することができた。
具体的な取組状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活気ある P T A 運営を目指し、執行部会や役員会を随時開き新たな P T A 行事を実行するなど役員間の連携を保てた。</li> <li>・ホームページに学校行事の記事など機会を捉えて掲載し、実行することができ、各行事の保護者への公開につながった</li> </ul>	
評 価	A	A
学校評議員の意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次の 1、2 年生役員が良い学校を作っていくので P T A の活動の様子をどう伝えていくのが大切である。</li> <li>・富山西高校は P T A が楽しく関わる学校だと感じた。</li> </ul>	
次年度に向けての課題	<p>創立 102 年目を迎えるに当たり、本校の P T A がこれまで培ってきた各行事に対する取り組み方や各行事のそれぞれの目的を明確にしながらいかに具体的に次世代の P T A 組織に伝えていくことができるかが大切である。富山西高等学校の実情に沿ったより良き方策を今後も模索し実行して行きたい。</p>	

(評価基準 A: 達成した B: ほぼ達成した C: 現状維持 D: 現状より悪くなった)